

事業実績書

1 事業名 次世代へ農業の魅力を伝えるプログラム

2 実施期間 令和4年4月13日～令和4年12月31日

3 事業内容

① 事業の目的・概要

COVID-19の影響が長期にわたり、子ども達の生活は一変した。学校行事や地域のイベントが中止や制限される中ではあるが、楽しい農業体験を通し、農業を身近に感じ、地域の魅力を発見・理解する機会にしたい。農業とそこに携わる地域の方々との触れあい、さらには総社の農業が世界につながる魅力があることに興味を持ち、将来の職業選択のひとつになることを目指す。

② 事業の流れ等

事業項目1

○小学生対象の農業体験

対象……岡山県内の小学5・6年生

募集……総社市内小学校（15校）へチラシ配布

備中県民局管内の児童館10ヶ所、図書館へチラシ送付

備中県民局健康福祉部・当団体のSNSにて募集

参加者……5・6年 20名

実施場所…総社市宿にある桃の圃場、総社市山手の直売所・選果場

実施日……6月4日（土）桃の袋かけ

7月2日（土）桃の収穫

8月7日（日）桃の選果場、直売所の見学

○困窮家庭の子ども（総社市学習等支援教室「ワンステップ」参加の小学生）対象の桃の収穫体験

参加者……1～6年生 11名

実施場所…総社市宿にある桃の圃場

実施日……6月29日（水）の放課後

事業項目2

○学生ボランティアの受け入れ（農業体験）

小学生の農業体験時に、小学生と一緒に活動するボランティアを募集

対 象…岡山県内在住・在学中の高校生・大学生

募 集…総社市内の高校（2校）高松農業高校
備中県民局管内の大学（6校）へチラシ送付
ノートルダム清心大学での参加説明会

参加者…58名（申込63名）

参加校…総社高校 総社南高校 新見公立大学 岡山県立大学
吉備国際大学 倉敷市立短期大学 ノートルダム清心女子大学

事業項目3

○地元の若手農業経営者が農業について学生と語る座談会

「総社でがんばる若手農業経営者のトークイベント」の実施

対 象…岡山県内在住・在学中の高校生・大学生

募 集…ボランティアでの参加校、参加者へチラシ配布
県内農業科のある高校（6校）・大学（7校）へ案内・声掛け
総社市広報誌への掲載 山陽新聞への掲載
備中県民局健康福祉部・当団体の SNS にて募集
総社市役所・総社市社会福祉協議会への募集依頼

参加者…18名（申込19名）

参加校…高松農業高校 高梁日新高校 真備陵南高校
岡山大学 山陽学園大学 農業大学校 岡山県立大学

講師・協力…きびじ農業後継者クラブ

実施場所…そうじゃ子育ての駅 ほのぼの

実施日…10月30日（日）10：00～12：30

第一部：農業経営の話

第二部：農業経営等に関する意見交換・座談会

○全体を通して

桃の農業体験を3回実施したことで、小学生は楽しい体験と共に、桃の知識と農業の大切さ、地元総社の魅力に気付いてもらう事ができた。保護者には、子どもの体験を通して桃の知識と農業の大切さや、総社の桃生産者が頑張っている事、地元農業の魅力が伝えられた。

困窮家庭の子どもの農業体験としては、ワンステップ参加の小学生対象に桃の収穫体験を実施した。放課後の短い時間ではあったが、子ども達にとって楽しい体験の機会となり、実際に桃の収穫を体験することで、地元総社の農業への関心を持ってもらう事ができた。

学生ボランティアは、参加の理由に「子どもと関わりたい」と答えていた人

が多く、保育や福祉を学ぶ学生以外にも、看護・心理・外国語・日本文学・現代社会と様々な学科の学生が集まった。小学生にとっても、学生と1対1で活動することにより、安心感を持って参加できた。学生にも、小学生との活動を通して、総社の桃について知ってもらえる機会となった。学生へのアンケートには、桃のことを知りたい・桃や農業に興味があると答えた人も多かったが、ボランティア活動ではない座談会への参加は少なかった。

トークイベントは、農業を学んでいる学生が多くを占めた。

第一部では、それぞれ現在どこでどの様な作物を作っているか、どういった経緯で就農する事になったかといった話を参加者に向けてしていただいた。3名共に、別の仕事を経験された後、就農された経歴があり、いつからでもチャレンジできる事、どんな経験も役に立つ事等、若い世代へ向けた内容であった。

第二部の座談会は、参加者を3グループに分け、そこへ桃・ぶどう・なす農業経営者2名ずつ（講師と同業者1名）が入った。15分ごとに講師陣が移動し、参加者はどの講師陣にも質問ができるという形で行った。また受付・記録係として、地域の主任児童委員・愛育委員の方に参加していただくことにより、地域の大人と若い世代の交流の機会にもなった。

参加者からは、繁忙期間の長さ、専門の割合、栽培方法、県外への出荷方法について等、具体的な質問が多く出ていた。また、他の仕事から就農する人は多いか、休みはどれ位取れるのか、売上はどれくらいなのか、なぜその作物を選んだのか、モチベーションを上げるにはどうすればいいのか等、就農するにあたっての質問も多くあった。

講師陣の方々も、質問に対し一つ一つ丁寧に答えていただいた。どのグループも、生産者の方からの話を聞き逃すまいとする学生の姿が見られた。

この事業を実施するためには、きびじ農業後継者クラブの協力が不可欠だった。農繁期にも関わらず、地域に貢献したいというきびじ農業後継者クラブの考えから、企画当初から農業体験・トークイベントに関わる全てにおいて一緒に考えていただき、体験用の資料も制作していただいた。だからこそ、「伝わる」プログラムが実施できたと思われる。

この事業を効果的にする工夫は、参加者へのアンケートの実施（事前・事後）、体験時の資料の用意、講師による「岡山で桃農家になった理由」を体験時に盛り込んだこと、インスタグラムで桃の成長過程を発信すること、きびじ農業後継者クラブの方に子どもとたくさん関わってもらうこと、講師が保護者の前で収穫した桃の状態を話す機会を作ったことである。また、トークイベントでは、講師陣に桃の農業経営者だけでなく、ぶどうの農業経営者・なすの農業経営者の方を加えたことで、果樹以外の話も聞くことができるようにした。さらに座談会のグループを3つに分けることによって、少人数で話しやすい雰囲気を作ったことである。

③ 成果・効果

成果目標 1

県内への PR によって、参加者を集める

評価指標・測定方法	数値目標		
	現状	今年度	実績
農業体験、学生ボランティア、座談会への参加人数の達成度（定員に対する割合）	0	農業体験 100% 学生ボランティア 80% 座談会 80%	農業体験 100% 学生ボランティア 100% 座談会 63%

トークイベント会場は、土地勘のない学生にも参加してもらいやすい様に、総社駅近くの会場を選定。開催日は、農業を学んでいる学生に多く参加してもらえる様に、6月に高松農業高校に10月の学校行事を確認したうえで、10月30日(日)に設定した。

トークイベントのチラシを総社市内の高校・高松農業高校へは8月末から、大学へは9月末から配布。8月7日(日)の選果場見学に参加した学生ボランティアへは参加時にチラシを渡した。しかし反応が薄いため、高校の担当の先生に尋ねると、総社高校・総社南高校共、10月30日は2年生・3年生の模試があることが分かった。ボランティアに参加していたのも2年生・3年生であったため、ボランティアに参加した学生をトークイベントへ繋げることができなかった。多くの学生に参加してもらいたかった高松農業高校からの申し込みも、最初に申し込みのあった2名から増えなかった。

反省としては、学校行事の確認が不十分だったことと、6月・7月の農業体験時に、トークイベントの案内ができていなかったことが挙げられる。ボランティアに参加した学生へは、案内を郵送し、その後電話もかけたが、別の行事やボランティア活動などと日程が重なり、残念ながら参加には繋がらなかった。その結果を受け、当団体の声掛け・SNSを発信の強化し、「あい・あい」のメンバーも、知り合いの高校生・大学生へ声掛けを行った。また、備南広域農業普及指導センターのご尽力で、農業大学校や岡山大学からの申し込み追加へと繋がった。総社市役所農林課からも協力を得ることができ、対象外ではあるが、新規就農を志す若者の参加に繋がった。地域で活動されている他団体からも、学生を紹介していただくことができた。これらの結果、本当に農業に興味のある学生、地元での活動に興味のある学生が集まり、非常に内容の濃いトークイベントとなった。

今回参加してくれた高校生の中に、小学生の時に「子育て王国そうじゃ」まちづくり実行委員会事業で開催した農業体験に参加し、現在農業に興味を

持ち、トークイベントに参加してくれた人がいた。この事業の参加者にも、将来にわたって農業に興味を持ってもらえる希望が持てた。

成果目標 2

収穫の喜びや流通のしくみを知ることによって農業の魅力を感じる

評価指標・測定方法	数値目標		
	現状	今年度	実績
小学生と保護者対象の理解度アンケート（5段階評価で4以上の割合）	0	80%	小学生 95% （未回収 1名） 保護者 65% （未回収 2名）

参加小学生の保護者は事前アンケートによると、元々農業に良いイメージを持っている方が多かった。事後アンケートに「農業へのイメージが変わらない」と答えている方が7名あったが、実際にはほとんどの保護者に良いイメージを持ってもらえている。保護者用資料も全員が参考になったと回答し、総社の桃へも、買い物の際に親子で気にするようになった等、全員が以前よりも興味を持つようになったと答えている。

成果目標 3

座談会にてリアルな農業の魅力と将来性を次世代へ伝える

評価指標・測定方法	数値目標		
	現状	今年度	実績
学生対象の満足度アンケート（5段階評価で4以上の割合）	0	80%	100%

事業項目3の「総社でがんばる若手農業経営者のトークイベント」は、募集定員の30人には達することはできなかったが、農業を学んでいる学生が県内から集まってくれたことで、第二部の講師陣を囲んでの座談会では、活発な意見交換がなされ、時間が足りないほど内容の濃いものであった。

アンケートの自由記述欄には、「学校を卒業してから農業以外の仕事をし、就農される方が多いという事を聞いて、少しハードルが下がりました。」
「良い面だけでなく、大変な面も教えてもらえて良かった。」
「農業をされている方の生の声を聞く事ができて、良い刺激になりました。」等、このイベントが有意義であったとの感想を多くいただいた。

④ 今後の課題・展開等

農業体験に参加したい小学生、地域へ出てボランティア活動をしたい学生が多くいることが分かったが、ボランティア以外のイベントへ自ら参加してみようという学生はまだまだ少ないと感じた。募集の方法に工夫が必要と実感した。備中県民局の協力で、多方面への PR、事業規模の拡大が可能となり、得られた成果は非常に大きかったが、同時に負担も大きくなった。そして改めて、地元総社を拠点に活動していきたいと感じた。来年度も、きびじ農業後継者クラブと協力し、地域の子どものために農業の体験を企画・実施していきたい。総社市役所農林課からも今年度の事業に興味を持っていただけたので、農林課も巻き込んだ事業に発展できればと考える。

⑤ 県民局と協働した効果及び課題

応募・企画段階から事業に関する助言や協力をいただいた事が協働の利点であった。広く備中県民局管内へ広報していただけ、今まで接点のなかった大学の教職員の方々や大学生と繋がりができた。

しかし、対象が小学生・高校生・大学生という事で、イベントやボランティア活動に興味を持っていても、市外在住者の人には総社市内の移動手段が見つけにくい現状がある。広く備中県民局管内から来て活動する参加者を受け入れる体制を整えることが難しかった。

4. 参考事項・資料

農業体験1回目 6月4日(土) 桃の袋かけ



子ども達の似顔絵看板



農業体験2回目 7月2日(土) 桃の収穫



体験用の桃の木の前で、小学生・学生ボランティア・農業後継者クラブの皆さんと撮影



お迎え時の様子



農業体験3回目 8月7日(日) 選果場他の見学

選果場見学の様子



直売所見学の様子





直売所の方お話を聞いている様子



ボランティア活動後、感想カードを記入している様子



体験終了後、バスの車体に絵を描いている様子

困窮家庭対象の桃の収穫体験 6月29日(水)



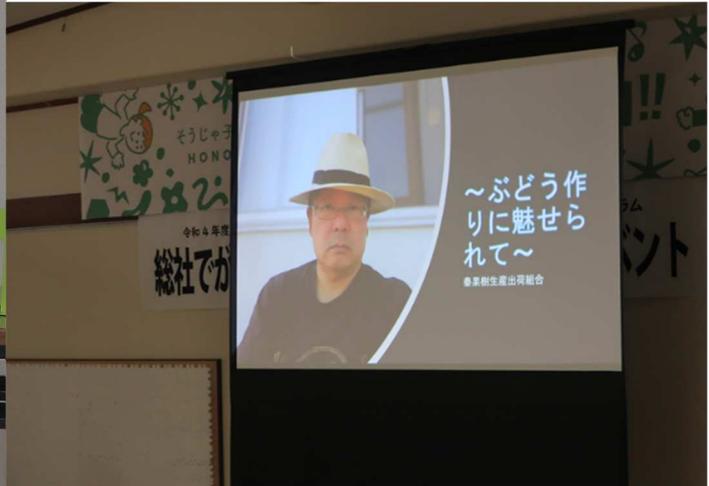
10月30日（日） 総社でがんばる若手農業経営者のトークイベント



受付の様子



総社市長の挨拶



第一部の、講師による講演の様子





第二部の座談会の様子



講師の方から、会の感想をいただきました